

# 「英国の人と海辺のまちづくり -日本へのメッセージ-」

井上聰史（政策研究大学院大学客員教授、PIERS 研究会副会長）著

PIERS 研究会発行

購入申込は、[メール](#)または[ファックス](#)にてお願いいたします

ISBN978-4-9913841-1-0

C0052 ¥2090E

定価2,300円  
(本体2,090円+税10%)



9784991384110



1920052020902



英国の人と海辺のまちづくりー日本へのメッセージー



Britain's Seaside Towns to Enrich People's Lives

# 英国の人と海辺の まちづくり

ー日本へのメッセージー

井上聰史

〈英国の人と海辺のまちづくり〉

I部 棧橋に魅せられて

II部 英国の国土と海辺のまち

III部 英国各地の海辺のまち

IV部 英国の海辺のまちづくり

V部 わが国へのメッセージ

井上聰史

PIERS  
研究会

地域を活性化する豊かな海辺づくり  
シビックプライドが支える海辺のまちづくり  
目指そう!「防護と利用の共存する」海辺づくり

PIERS 研究会

## 目次

〈英国の海辺のまちと栈橋〉	2
プロローグ	12

### I 部 栈橋に魅せられて

<b>1 章 一冊の本との出会い</b>	16
『アクアテクチュア』／わが国の港湾空間を変える 栈橋を学び始める	
<b>2 章 栈橋を巡る夢の実現へ</b>	20
現地で栈橋を見よう／全国の栈橋をどう見て廻るのか／栈橋調査の 旅程づくり／泊まる宿がない	
<b>3 章 興奮と感動の海辺の旅</b>	26
初めての栈橋巡り(2013年)／イングランドの南部海岸を巡る(2014 年)／イングランドの北部海岸を巡る(2015年)／英国の海辺を巡る 旅から	

### II 部 英国の国土と海辺のまち

<b>1 章 英国の国土と都市</b>	38
英国の国土と人口／英国の都市の分布／英国の沿岸部の都市	
<b>2 章 英国の海辺の特徴</b>	42
海岸の地形／海象条件／気候の特徴	
<b>3 章 海辺のまちの開発の歴史</b>	46
英国の産業革命と経済発展／海辺リゾートの誕生／海辺リゾートの 発展と栈橋の建設／海辺リゾートの大衆化と変貌／20世紀から今 日までの海辺リゾート	
<b>4 章 海辺リゾートにおける栈橋</b>	58
栈橋の歴史的展開／栈橋建造の地理的な展開／栈橋の所有形態と機 能特性	

### Ⅲ部 英国各地の海辺のまち

- 1章 **イングランド南部の海辺のまち** 68  
 ブライトン(Brighton)／イーストボーン(Eastbourne)／ポーツマス  
 (Portsmouth)／ボーンマス(Bournemouth)／トーキー(Torquay)
- 2章 **イングランド東部の海辺のまち** 101  
 サウスエンド(Southend)／グレート・ヤーマス(Great Yarmouth)／  
 クローマー(Cromer)
- 3章 **イングランド西部の海辺のまち** 119  
 ブラックプール(Blackpool)／サウスポート(Southport)
- 4章 **ウェールズの海辺のまち** 132  
 ランディドノー(Llandudno)／カーディフ(Cardiff)
- 5章 **スコットランドの海辺のまち** 147  
 ドゥヌーン(Dunoon)／ロスシー(Rothesay)

### Ⅳ部 英国の海辺のまちづくり

- 1章 **人と海が主役のまちづくり** 156  
 海辺のまちの空間構造／海辺リゾートのまちづくり
- 2章 **英国人の休暇と海辺のまち** 161  
 英国人の休暇と海辺／海辺のまちでの滞在日数／海辺での活動と楽  
 しみ方／休暇の拠点としての海辺のまち
- 3章 **海岸段丘を活かしたまちづくり** 168  
 海岸段丘の形成／海岸の崖を活かすまちづくり
- 4章 **海辺のまちとエスプラナード** 171  
 海岸浸食と防砂堤の建設／海辺リゾートにおける海岸の防護と利用  
 の両立／各地のエスプラナード
- 5章 **海辺のまちと栈橋** 177  
 海の上を歩く素晴らしさ／海辺の賑わいの拠点／海辺のまちの歴史  
 を感じる／海辺に新しい景観をつくる／栈橋の維持・再建の努力

### Ⅴ部 わが国へのメッセージ

- 1章 **わが国の海辺をめぐる現状と課題** 188  
 国土強靱化と海辺づくり／ライフ・スタイルの変化と海辺／海辺か  
 ら遠い人々の暮らし／ウォーターフロントづくりの再出発
- 2章 **新たな海辺のまちづくりへの挑戦** 198  
 暮らしの舞台となる海辺を目指して／新しい海辺づくりへのアプ  
 ローチ／「海を見ることが出来る」アプローチの展開／「海に近づ  
 くことが出来る」アプローチの展開／新しい海辺のまちづくりに向  
 けて
- 3章 **海辺づくりとシビックプライド** 223  
 シビックプライドの高まり／市民による海辺づくりのマスタープラ  
 ン／市民や民間の参画と創意による海辺づくり

エピローグ 233

参考文献 235

## 英国の人と海辺のまちづくり

——日本へのメッセージ——

### プロローグ

この10年間、私は英国の海辺のまちを50余り訪れてきた。英国の海辺には150年から200年も昔のビクトリア朝時代に造られた栈橋が現在も残っている。栈橋といっても船が着く港湾の栈橋ではなく人々が海を楽しむためのユニークな栈橋である。わが国の幕末から明治初期の頃の英国のことである。この栈橋に興味をもつ同好の士に呼びかけ2013年にPIERS研究会を設立し、毎年のように研究会の仲間と英国の海辺のまちに出かけ、各地の栈橋を調査してきた。英国には栈橋が60本ほど現存するが、これまでに数本を残してほぼすべてを踏破することができた。

このように私の英国への旅は栈橋を巡るものであるが、栈橋のある海辺のまちの旅でもあった。海辺のまちの駅舎、駅前の商店街、賑やかなレストラン、海辺で滞在したホテル、現地で交わした人々との会話など、どれも思い出深く記憶に残っている。栈橋は外洋に面して造られているので、暴風や高波などの災害を数多く被ってきた。そのたびに地域の人々が寄付を募り栈橋の復旧に苦労を重ねてきた。幾世代にもわたる努力の結晶として今日の栈橋がある。まさにシビックプライド発祥の国にふさわしく海辺のまちに住む人々の誇りと情熱に満ちた活動である。

英国における海辺のまちは、どこも長い歴史の中で培われてきた風情ある街並みと海辺の豊かさを漂わせている。ロンドンのような大都会にはない落ち着きの中にきめ細かな個性を輝かせている。どのまちも海に明るく開かれながら懐の深さと風格さえ感じさせる。しかも海

辺のまちは、今日でも多くの英国人が家族や友人たちと長期の休暇を楽しんだり、毎日の忙しさから抜けだし息抜きに頻繁に訪れたり、本当に身近な場として愛され続けている。

一方、わが国の海辺のまちは、残念ながら、ともすれば海に背を向けて市街地の開発が進み、人々の生活も海辺から遠ざかっているように見える。とくに2011年の東日本大震災により壊滅的な被害を受けたわが国は、地震や津波、高波への備えを固めるため国土の強靱化を急いでいる。現在、全国の海辺にはコンクリートの高い防潮堤が建設され、ますます海辺が人々の生活から遠く離れつつある。もとより沿岸部に多くの経済活動や人口が集積するわが国では、台風や高波、津波など厳しい海象条件のなかで人々の生命と財産を守る国土の防災は非常に重要であり海岸の防護は必要不可欠である。しかし人々の海辺の利用や楽しみを顧みない防護一辺倒の政策はこれからの国土づくりに大いなる禍根を残すことになる。海辺の防護と利用の共生・両立こそ、新しい国土づくり、地域づくりに求められている。

折りしも、わが国はこれまでの仕事中心の社会から、ようやくワークライフ・バランスを重視した成熟社会へ転換しようとしている。そこでは生活の舞台となる地域の暮らしやすさ、住みやすさが強く求められ、海辺の豊かさを実感できる海辺のまちづくりが極めて重要になってくる。このため、これまでの海岸整備のあり方を見直し、新しい発想とアプローチによる海辺づくり、海辺のまちづくりを全国で展開していくことが望まれる。わが国は英国と同様に四面を海に囲まれた島国であるが、これまで海辺のまちのあり方を正面から議論してこなかったように思われる。海辺のもつ個性や魅力をふんだんに活かした海辺のまちづくりとはどのようなものか。わが国の厳しい自然条件のなかで、海辺の防護と利用の共生・両立を図るためには、どのようなアプローチや手法を展開していくべきであろうか。

こうした思いから、海辺のまちや栈橋をめぐる私のこれまでの活動を振り返りながら、英国における海辺のまちづくりの歴史や実態をで

きるだけ幅広い観点から論じることとした。国の風土こそ異なるが、英国が長い歴史の中で取り組んできた「人と海が主役のまちづくり」から得られる示唆は決して少なくないと思う。さらにわが国の海辺のまちづくりについても、これから取り組むべき課題や基本的な考え方そして具体的な手法について私論を提起するものである。少しでも関係者の方々に役立つことを願っている。

本書の構成は、まずI部で私が英国の棧橋の存在にどのように出会い、現地調査をどのように実施してきたかを述べる。次いでII部で英国の国土や海辺についてわが国と対比させながらその特徴を明らかにする。また海辺のまちの開発の歴史を辿り、とくに海辺リゾートとしての誕生から発展と変遷そして現状について詳しく述べる。さらに海辺リゾートにおける棧橋の歴史や特徴を概観する。III部では、個々の海辺のまちの特徴を具体的に紹介するため、イングランド南部、東部、西部、ウェールズ、スコットランドの代表的な海辺のまちについて、それぞれの歴史やまちの特徴、現状について訪問時の印象も交えながら詳しく述べる。IV部で、こうした分析から見えてきた英国の海辺のまちづくりの特徴をとりまとめる。また海辺のまちづくりのインフラとして「エスプラナード」と「棧橋」が大きな役割を果たしていることを述べる。最後にV部として、わが国の新しい海辺づくり、海辺のまちづくりが目指すべき方向と具体的な取り組みの方策について、先行的な国内の事例とともに提言する。

また本書に登場する英国の主要な海辺のまちの地理的な位置については、冒頭の英国地図に表記したので参考なれば幸いである。

なお挿入する写真はとくに出典を記さない限り、私が現地で撮影したものである。しかし一部はPIERS研究会メンバーの調査時の写真を使わせていただいた。調査時以降に大きな開発や変化があった場合には、関係する機関が公開する写真を出典とともに使っている。また航空写真が有効な場合にはGoogle Mapの写真を使用している。